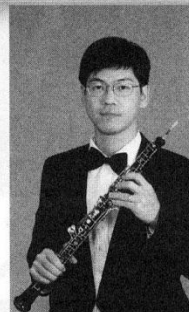


O B O E

オーボエ

福田淳 ふくだ・きよし



- ◆出身 岡山県作陽高校、京都市立芸術大学・大学院
- ◆所属 大阪市音楽団、アンサンブルダンツィ大阪
- ◆趣味 自然の中でのんびり過ごすこと
- ◆血液型 B型
- ◆星座 みずがめ座
- ◆読者にひとこと 自然体、「ありのまま」でいきましょう
- ◆手紙の送り先 kiyoshi-fukuda@di.pdx.ne.jp

リードをくわえるときに、気をつけること

[2-③]リードについての3つのポイント

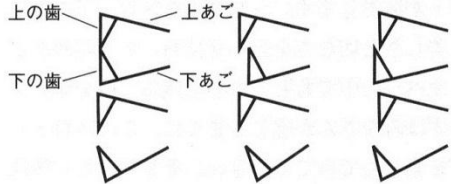
楽器を吹くにあたって、リードに関して守るべき条件が3つあります。

①リードの角度

2枚のリードは、上下とも同じ位置で支えられていなければなりません。

顔の正面に対するリードの角度は、上下の歯のかみ合わせによって決まりますが、当然その角度は一人ひとり違います(【図1】)。

【図1】 歯の状態や、あごのかみ合わせの具合は、人によってさまざま



まずその角度を調べましょう……と言っても、何も難しくはありません。これは、軽くくわえたリードを、唇でキュッと巻きとったときの角度なのです。

理屈で言うと、「口を開いたときの、上あごの歯と下あごの歯の先端を結んだ線(面)に対して垂直に」ということになります(【図2】)。

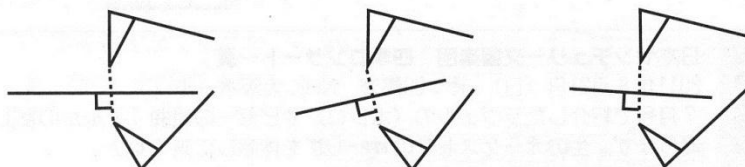
しかし、リードだけなら簡単にいいますが、楽器をつけた状態だと、どの角度が正しいのかが分かりづらくなります。そこで、正しく判断するために、音を使って実験してみましょう。

まず、リードだけをくわえて音を出してください。「ピーッ」と鳴りましたか? 音程は気にしなくてもよいです。

では次に、「ピーッ」と音が鳴っているときに、リード(コルクの部分)を指で下に押す(【図3のA】)と、音程はどうなりました

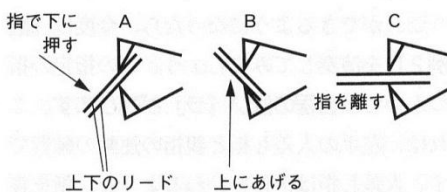
【図2】

リードの角度は、歯やあごの形状にかかわらず、上下の歯の先端を結んだ線に対して直角となる

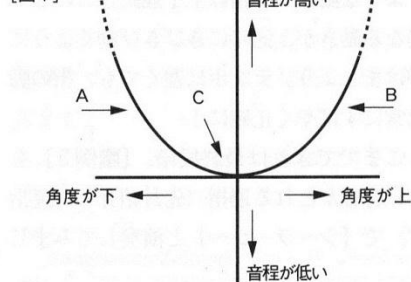


か? 逆に、上にあげる(【図3のB】)と音程はどうなりましたか? そして、指を離す(【図3のC】)と音程はどうなりましたか? これをグラフにすると【図4】のようになります。

【図3】



【図4】



このことから、リードで音を出したときに、その音程が最も低い付近が「歯とリードの角度が正しい(=リードの両面が同じ位置で支えられている)」位置であることがわかります。同様に、リードを楽器につけて正しい角度を見つけます。

②リードをくわえる深さ

2枚のリードの上下が同じ位置で支えられているわけですが、次に、「どれくらいの深さでくわえればよいのか」について考えていきます。

リードを非常に浅くくわえて吹くと、どんな音になりますか? 反対に、非常に深くくわえて吹くと、どんな音になりますか? ぜひ楽器をつけてやってみてください。

どうなりましたか? 浅くくわえた場合は、音が詰まったような感じで、音程も低くなっていませんか。深くくわえた場合は、音が暴れるような感じで、しっかり鳴るがオクターヴ上になると音がぶらさがったり、オクターヴ下の音しか出なかったりしませんか。これらの特徴を手がかりに、「浅すぎず、深すぎない」「響きが豊かで、音程も破綻しない」適正なポイントを見つけ出していくのです。

判断の材料としては、2オクターヴが破綻せずに吹けることです。浅くくわえすぎたときに見られる症状が出た場合はそれより深くくわえ、深すぎるときの症状が出た場合はそれより浅くくわえて吹いてみるのです。

③リードを支える強さ

最後の要素がこれ。角度と深さが決まったら、次は「どの程度の強さでリードを支えるか」です。

簡単に言ってしまうと、楽器にリードをつけて「解放状態」(どのキイも押さえない状態)で音を出したときの音程が、セミオートマチックの場合は「ド」、フルオートマチックの場合は「ド#」であれば、適切な強さでリードが支えられているということです。

あくまで目やすですが、それより音程が低い場合は、音がぶらさがった感じになり、高音になるほど顕著になります。反対に、音程が高い場合は、響きがやせ、低音は裏返り高音は高く細い音になります。これも2オクターヴを吹いて破綻しないかどうか、判断の材料となります(上達すれば3オクターヴでも同様にできます)。

ちなみに、このことは「口の開きを常に一定にする」というのではなく、「息の量が増せば口の開きも増して、その音程を維持し続ける」ということを意味します。

以上の3つの要素をクリアすると、安定して楽器を吹くことができます。